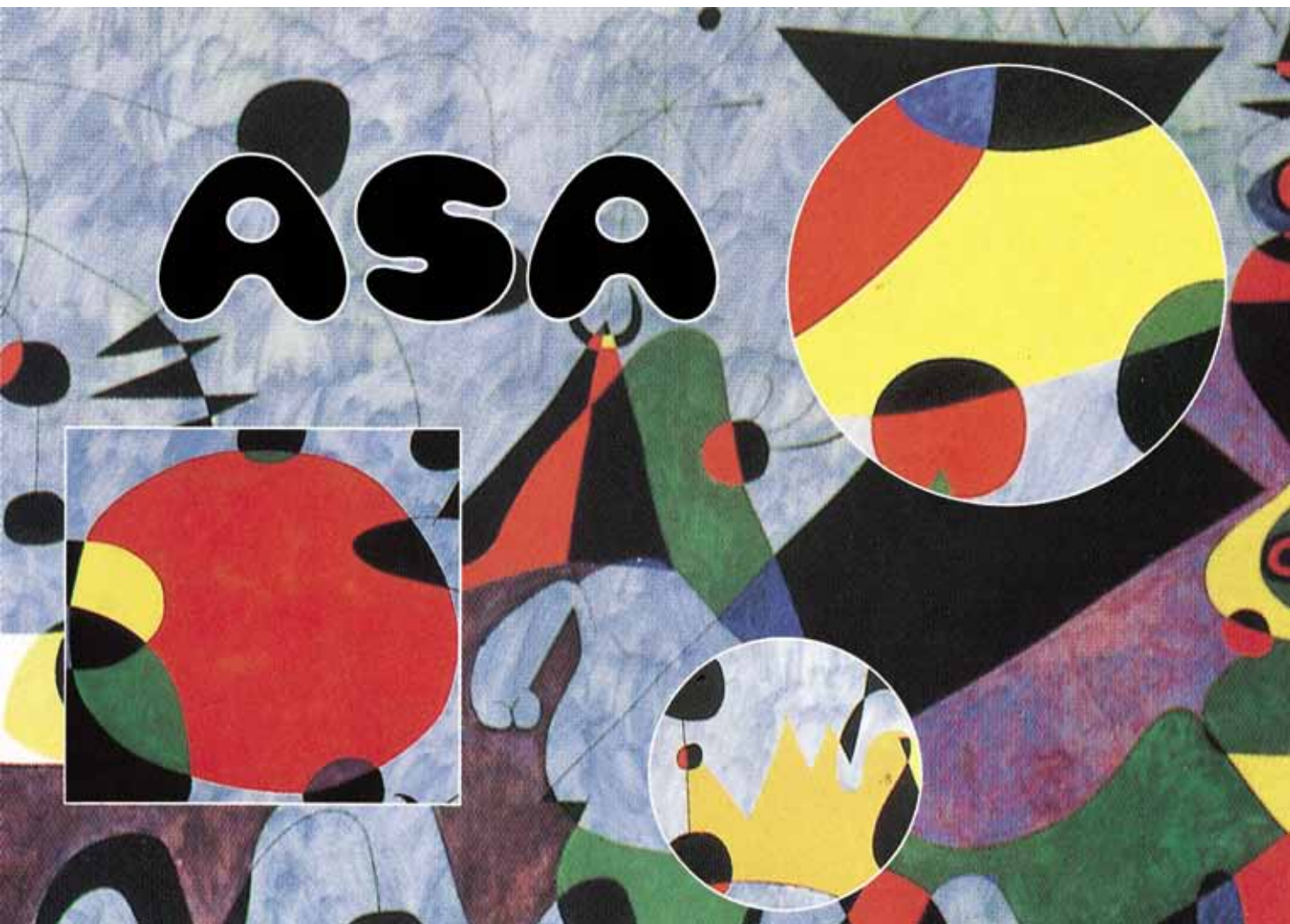


耐火野地板
硬質木毛セメント板

 **ASA** **ボード**
ア サ



日化ボード株式会社

ニューASAボードの特長

- 環境性** 平成13年4月環境物品調達の推進に関する法律が施行され、環境負荷低減型建材として、グリーン購入法指定製品となりました。
- 健康性** 原材料は木材・セメントで、アスベスト等有害物質は一切使用しておりません。
また、シックハウス対策に関する法律において対象外建材であり、ホルムアルデヒドVOC等放散低減型建材としての適合製品です。
- 耐火性** 国土交通大臣認定屋根耐火30分構造製品。
- 強度性** 強度があり施工性が向上しました。また、曲面屋根にも充分対応できます。
- 遮音性** 透過性に優れているので、スポーツ施設・音響施設等の建物に利用できます。
- 保釘力** ビスの保釘力があるので施工性が大幅に改善されます。



【屋根葺材及び野地板、施工別認定番号一覧】

■金属板屋根(横葺、瓦棒葺、立平葺、金属瓦葺、折板葺)

○屋根葺材料：鋼板、金属板

野地板：ニュー ASA ボード 15 ～ 30mm

FP030RF-0245・0246・0247・0248・0249・0250・0251・0252

■瓦屋根

○屋根葺材料：粘土瓦、プレスセメント瓦

野地板：ニュー ASA ボード 15 ～ 30mm

FP030RF-0239・0240

○屋根葺材料：粘土瓦

野地板：ニュー ASA ボード 20 ～ 30mm

FP030RF-0046 ※支持部材間隔は 3,640 までとする

■スレート屋根

○屋根葺材料：化粧スレート、繊維強化セメント板

野地板：ニュー ASA ボード 15 ～ 30mm

FP030RF-0241・0242

○屋根葺材料：波型スレート、原型スレート

野地板：ニュー ASA ボード 20 ～ 30mm

FP030RF-0046 ※支持部材間隔は 3,640 までとする

■シングル屋根

○屋根葺材料：アスファルトシングル、炭酸カルシウムシングル

野地板：ニュー ASA ボード 15 ～ 30mm

FP030RF-0243・0244

○屋根葺材料：不燃シングル

野地板：ニュー ASA ボード 20 ～ 30mm

FP030RF-0046 ※支持部材間隔は 3,640 までとする

* 金属屋根の鋼板の詳細種類については、お問い合わせください。

* FP030RF-0046 の瓦屋根、スレート屋根、シングル屋根の施工について、母屋間隔は 3640mm まで対応

* 梁下が 4 m以上の時は母屋・タルキともに耐火被覆は必要ありません。

●ニューASAボードの規格

項目	製品の厚さ				備考
	15mm	20mm	25mm	30mm	
厚さmm	15 ± $\frac{1}{2}$	20 ± $\frac{1}{2}$	25 ± $\frac{1}{2}$	30 ± $\frac{1}{2}$	JIS A 5404
寸法（幅×長さ）mm	910 × 1820 ± $\frac{1}{2}$				
かさ密度	1.0 以上				
曲げ破壊荷重 N	800 以上	1300 以上	1800 以上	2000 以上	JIS A 1408
たわみ量mm	8 以下	7 以下	6 以下	5 以下	
熱伝導率 W/m・k	0.11				JIS A 1420
くぎ側面抵抗 N	500 以上	600 以上	700 以上	800 以上	
最大引抜き荷重 N	800	1100	1500	1600	4.0φ× 40
タッピングねじ保持力 N	600 以上	750 以上	950 以上	1100 以上	4.0φ

●積雪限度計算表

積雪限度 (cm) = {長期許容荷重 (N) - 屋根自重 (N)} ÷ 0.7 ÷ 雪の単位重量 (N・cm)

積雪単位重量は積雪深さにより状況に応じた数値としてください

厚さ mm	ニューASA ボード自重 kg/m ²	屋根自重 kg/m ² (野地板共)	母屋間隔 455mm		母屋間隔 606mm	
			許容荷重 N	積雪限度cm	許容荷重 N	積雪限度cm
15	15	20	6422	296	3853	174
20	20	25	10380	482	6228	284
25	25	30	15570	740	9342	443
30	30	35	19889	930	11933	551

●遮音性能

透過損失

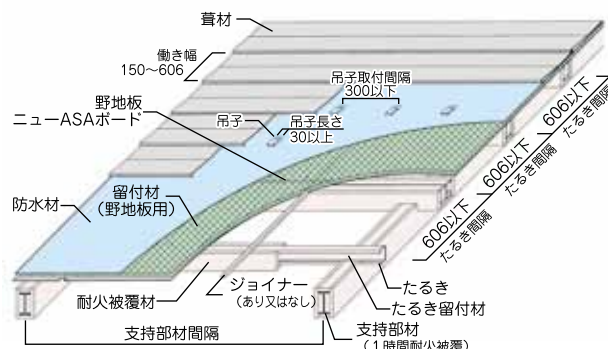
厚さ	周波数 (HZ)					
mm	125	250	500	1000	2000	4000
20	20.0	26.0	32.0	38.2	38.2	43.7
25	22.0	28.0	34.0	40.0	39.9	45.4

標準施工例

● 金属板横葺屋根 ●

野地板（ニューASAボード）をたるきの上に敷き、タッピンねじ（十字穴付かドリリングφ3.5×30以上）にて、たるきに固定する。留付間隔は435以下とする。

野地板の上に防水材を重ね代100以上とり敷き込む。屋根葺き材の上部のハゼに、吊子（厚さ0.35～3.2、長さ30以上）をかけ、タッピンねじ（十字穴付φ3.5×30以上かすりわり付φ4.2×30）でたるきに固定する。吊子の取付間隔は300以下とする。

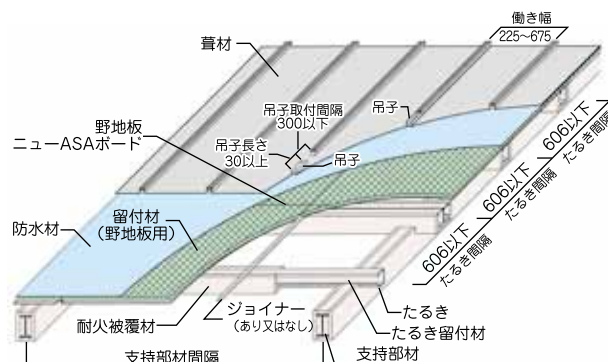


※構造計算等によって構造安全性が確かめられた寸法

● 金属板瓦棒葺屋根 ●

野地板（ニューASAボード）をたるきの上に敷き、タッピンねじ（十字穴付かドリリングφ3.5×30以上）にて、たるきに固定する。留付間隔は435以下とする。

野地板の上に防水材を重ね代100以上とり敷き込む。屋根葺き材は吊子（厚さ0.35～3.2、長さ30以上）より固定する。吊子はタッピンねじ（十字穴付φ3.5×30以上かすりわり付φ4.2×30）以上でたるきに固定する。吊子の取付間隔は300以下とする。



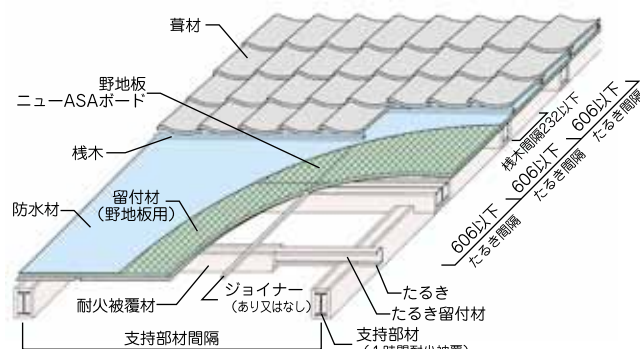
※構造計算等によって構造安全性が確かめられた寸法

● かわら葺屋根 ●

野地板（ニューASAボード）をたるきの上に敷き、タッピンねじ（十字穴付かドリリングφ3.5×30以上）にて、たるきに固定する。留付間隔は435以下とする。

野地板の上に防水材を重ね代100以上とり敷き込む。防水材の上に、かわらの敷き枚数（粘土がわら40～60枚/3.3、プレスセメントがわら9～15枚/）に合わせ、棧木（寸法18×25以上）をタッピンねじ（十字穴付かドリリングφ3.5×35以上）にて固定する。

棧木の間隔は232以下とし、留付間隔は303以下とする。

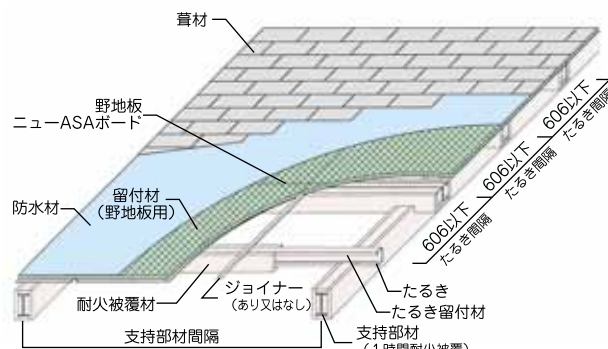


※構造計算等によって構造安全性が確かめられた寸法

● シングル葺屋根 ●

野地板（ニューASAボード）をたるきの上に敷き、タッピンねじ（十字穴付かドリリングφ3.5×30以上）にて、たるきに固定する。留付間隔は435以下とする。

野地板の上に防水材を重ね代100以上とり敷き込む。防水材の上にシングル葺き材を敷き、ドリリングタッピンねじ（φ3.0×20以上）か、くぎ（φ2.15×20以上）又は接着剤（合成ゴム系、塗布量1.3以下）で野地板に固定する。



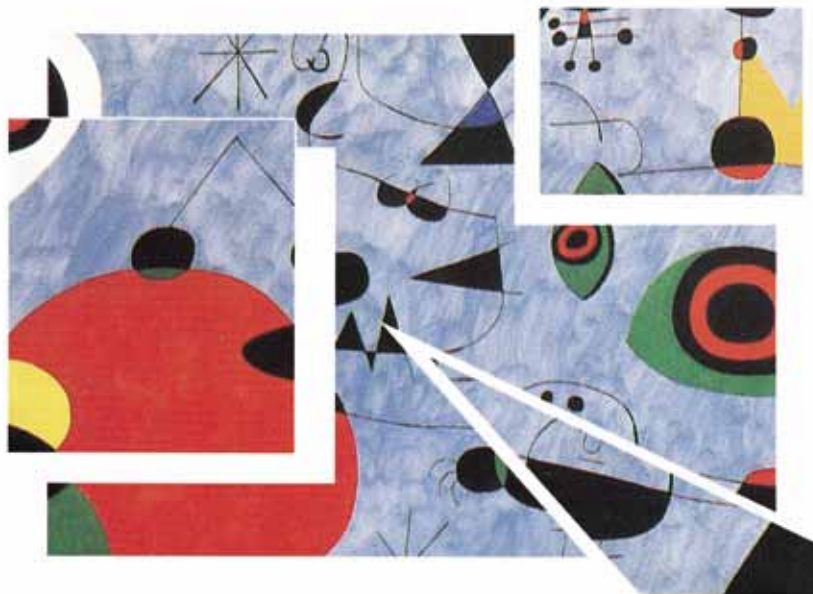
※構造計算等によって構造安全性が確かめられた寸法

アール工法

半径 8 m～3 mまで曲げ加工できます。
各サイズ受注生産になります。（納期約 1 ヶ月）

施工上の注意

1. 屋外等に保管する場合は雨水等が入らないようにシートをかけて保管してください。
2. 母屋は構造計算等によって、耐力上安全なものとし耐火被覆を施す。
3. タルキは606間隔以下とし、取付金物（L型75×65×6以上）を母屋に溶接にて固定し、タルキ取付ボルトを用いて固定する。
野地板の目地部は、取付金物（FB75×65×6）を二重タルキとする。
野地板の短辺ジョイントは、板の端20以上のところに30以下の間隔でビス留めして下さい。
4. 野地板の敷き込み施工後は、早く防水材を敷いて下さい。雨に濡れると、染み、汚れ、強度の低下につながります。
5. 施工時は踏み抜き事故防止のため、タルキ以外の部分には乗らないでください。必ず歩み板等を使用して下さい。



日本工業規格 認証番号 TC 02 14 004
準不燃材料認定 QM-9701・9702
不燃材料認定 NM-0234



日化ボード株式会社

〒979-1512 福島県双葉郡浪江町北幾世橋字北原16
TEL 0240(35)2546 FAX 0240(35)2547
e-mail nk-board@nk-board.jp